

補助金チェックシート(新規)

作成年度: 令和3年度

1. 補助金の内容

補助金名称	がん患者補整具購入費補助金	補助金番号	D1-14
所管部署	地域健康福祉室(健康増進・介護予防担当)		
根拠名称 (交付規則以外)	枚方市がん患者補整具購入費補助金交付要綱 (仮称)		
制定状況	制定済 ⇒	平成 年 月 日施行	
	○ 未制定 ⇒	令和 4 年 3 月制定、令和 4 年 4 月 1 日施行予定	
交付の目的	がん治療による抗がん剤等の使用に伴う外見の変貌に対して、補完となる補整具の購入費用を一部助成し、がん患者の精神的なストレスや社会参加等への不安を和らげ、がん治療経験者としての生活を、今までと変わらず安心して送るための一助とする。		
補助対象経費	①ウイッグ(部分用ウイッグ、ウイッグ用保護ネット、毛付き帽子、毛付き帽子の髪、毛付き帽子の帽子、帽子を含む) 上限3万円 ②乳房補整具 A. 補整下着(下着とともに使用するパッドを含む) 上限1万円 又は B. 人工乳房・人口乳頭(乳房再建術等によって体内に埋め込まれたものを除く) 上限3万円		
補助率・補助額	その他		
交付先	対象者:①~④の要件をすべて満たす者 ①申請時に枚方市に住民票を有する者 ②がんと診断されその治療を受けた又は現に受けている者 ③対象補整具を、令和4年4月1日以降に購入した者 ④過去に対象補整具と同種の補助を受けていない者		
開始年月日	令和 4 年 4 月 1 日(予定・確定)	サンセット期日	令和6 年度末
補助金性質分類	制度的補助	団体運営補助	事業費補助 〇 その他
法令等での義務付け	なし	法令等名称	

2. 予算要求額

(千円)

	月補正	R4	年度当初予算
要求(予定)額			5,469
特定財源	国庫支出金		
	府支出金		
	その他		
一般財源			5,469

交付見込み件数	205
---------	-----

3. 補助金の見直しに関する方針との整合性

①補助金交付の基本的な視点

i 継続(新設)可否の判断(いずれかが不適合の場合は補助制度として承認されません。)

視点	チェックポイント	チェック	理由・詳細等
公益性	補助金交付対象事業の目的や内容が、広く市民の利益に貢献するもので、特定のものに利益に供するものではない。	✓	がん罹患数は増加しており、またがんの生存率は多くの部位で上昇している。がん治療を経験したうえで日常生活を送る市民は今後も増加することが見込まれる。

必要性	関連する施策目標や事務事業目的の達成に必要な不可欠な補助金交付である。	✓	がんになっても、より良い療養環境で、自分らしく住み続けることにつながる。がん治療に伴う見た目の変化により、社会参加への不安を持つがん患者を少しでも減らすことにつながる。
	ニーズが高い又は高いニーズが見込まれる補助金である。	✓	がん罹患数は増加しており、またがんの生存率は多くの部位で上昇している。がん治療を経験したうえで日常生活を送る市民は今後も増加することが見込まれる。
有効性	期待する効果をあげる見込みがある。	✓	がん治療の副作用として見た目が変化してしまう事への心理的影響は大きく、補整具による補完によって市民が自分らしく生活しやすくなる。
	補助金交付が委託や直接執行等と比較し、より適正で効果的な手法である。	✓	補整具は身体へ携行するものであり、市民の身体に合う物品の購入費用を助成する事が望ましい。

ii 補助金制度の検証

視点	チェックポイント	チェック	理由・詳細等
必要性	調査等により市民のニーズを的確に把握している。又は他市町村でも同様の補助制度が多数存在することを確認している等、ニーズの推定ができています。	✓	がん拠点病院において補助金対象となると推定される件数を調査し、患者と接する医療従事者から患者の実情やニーズの情報収集を行った。他市町村でも同様の補助制度が多数存在しており、申請状況等問い合わせを行った。
	一定数の交付申請件数が見込まれる。	✓	先行市への状況を問い合わせし、申請件数の見込みを確認している。市内のがん拠点病院においても対象となる市民やニーズを確認しており、一定数の申請は見込まれる。
有効性	補助金交付の具体的な効果測定方法が確保されている。	✓	市民の心理的負担の軽減と社会参加がしやすくなったかどうかをアンケートにて確認していく。
公平性	要件を満たす不特定多数が交付申請可能な制度となっている。又は特定のもののみに交付を行う合理的な理由がある。	✓	性別、年齢を問わず、対象者は1人1回交付申請することができる。
妥当性	全額補助となっていない。又は全額補助を行う合理的な理由がある。	✓	購入する物品の単価としては全額になる場合も考えられるが各物品の補助上限額を設定し、上限額を超えた金額については申請者負担。
	補助率、補助金額、補助対象経費等の妥当性について十分検討を行った。	✓	補整具の複数の業者による相場を調査し、先行市の補助金額や補助対象経費について確認して検討した。最低限必要な補整具の購入を保証するために妥当な内容であるかを検討した。
	補助率、補助金額、補助対象経費等が明確である。(補助金交付要綱の整備を行うなど。)	✓	補助金交付要綱を整備していく。
	補助率、補助金額、補助対象経費が公表されているなど透明性が確保できる。(ホームページで補助制度を公表しているなど)	✓	ホームページや広報、チラシなどで周知を行う。市内のがん検診実施医療機関や、大阪府内のがん拠点病院へ周知を図り、必要な情報が伝わるよう周知を行う。

②補助金性質分類別の視点

その他

該当	チェックポイント	チェック	理由・詳細等
○	他の類似制度と重複が無いか確認をしている。	✓	医療費の保険適用外の物品を対象としており、他の類似制度との重複はない。